

# cd

システムのデフォルト フラッシュ デバイスを設定するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [[m/]device:]
```

## 構文の説明

<i>m/</i>	(任意) フラッシュ デバイスが含まれるスーパーバイザ エンジンのモジュール番号。
<i>device:</i>	(任意) 有効なデバイスには、 <b>bootflash</b> (ブートフラッシュ) および <b>slot0</b> があります。

## デフォルト

デフォルト フラッシュ デバイスはブートフラッシュです。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

通常。

## 使用上のガイドライン

デバイスを指定したあとに、コロン (:) を入力する必要があります。

デバイス指定が任意となっているコマンドで、デフォルト デバイスを指定しなかった場合は、**cd** で設定されたデバイスが使用されます。

## 例

次に、デフォルト フラッシュ デバイスをブートフラッシュに設定する例を示します。

```
Console> cd bootflash:  
Default flash device set to bootflash.  
Console>
```

## 関連コマンド

[pwd](#)

# clear alias

コマンドの省略形バージョンをクリアするには、**clear alias** コマンドを使用します。

**clear alias** {*name* | **all**}

## 構文の説明

<i>name</i>	コマンドの代替識別子。
<b>all</b>	作成されているすべての代替識別子をクリアするキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、**arpdel** というエイリアスを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear alias arpdel
Command alias deleted.
Console> (enable)
```

次に、すべてのエイリアスを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear alias all
Command alias table cleared. (1)
Console> (enable)
```

(1) は、クリアされたコマンド エイリアスの数を示します。

## 関連コマンド

[set alias](#)  
[show alias](#)

# clear arp

ARP テーブルから特定のエン트리またはすべてのエントリを削除するには、**clear arp** コマンドを使用します。

```
clear arp [all | dynamic | permanent | static] {ip_addr}
```

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) すべての ARP エントリをクリアするキーワード。
<b>dynamic</b>	(任意) すべてのダイナミック ARP エントリをクリアするキーワード。
<b>permanent</b>	(任意) すべての永続的 ARP エントリをクリアするキーワード。
<b>static</b>	(任意) すべてのスタティック ARP エントリをクリアするキーワード。
<i>ip_addr</i>	ARP テーブルから消去する IP アドレス。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、ARP テーブルから IP アドレス 198.133.219.209 を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear arp 198.133.219.209  
ARP entry deleted.  
Console> (enable)
```

次に、ARP テーブルからすべてのエントリを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear arp all  
ARP table cleared. (1)  
Console> (enable)
```

(1) は、クリアされたエントリの数を示します。

次に、ダイナミックに学習されたすべての ARP エントリを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear arp dynamic  
Unknown host  
Dynamic ARP entries cleared. (3)  
Console> (enable)
```

次に、永続的に入力されたすべての ARP エントリをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear arp permanent  
Unknown host  
Permanent ARP entries cleared.(5)  
Console> (enable)
```

■ clear arp

---

関連コマンド

set arp  
show arp

# clear banner motd

Message-of-The-Day バナーをクリアするには、**clear banner motd** コマンドを使用します。

## **clear banner motd**

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、Message-of-The-Day バナーをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear banner motd  
MOTD banner cleared  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set banner motd](#)

# clear boot auto-config

起動時に使用するコンフィギュレーション ファイルの指定に使用される CONFIG\_FILE 環境変数の内容をクリアするには、**clear boot auto-config** コマンドを使用します。

**clear boot auto-config** [*mod*]

## 構文の説明

*mod* (任意) フラッシュ デバイスが含まれるスーパーバイザ エンジンのモジュール番号。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、auto-config ファイルをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear boot auto-config  
CONFIG_FILE variable =  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set boot auto-config](#)  
[show boot](#)

# clear boot device

使用する NAM スタートアップ コンフィギュレーション ファイルの指定に使用される CONFIG\_FILE 環境変数の内容をクリアするには、**clear boot device** コマンドを使用します。

## **clear boot device** *mod*

構文の説明	<i>mod</i> フラッシュ デバイスが含まれるモジュールの番号。
デフォルト	このコマンドには、デフォルト設定はありません。
コマンドの種類	スイッチ コマンド。
コマンド モード	特権。
使用上のガイドライン	このコマンドをサポートするのは、NAM モジュールだけです。
例	次に、モジュール 2 の NVRAM から NAM ブート スtring をクリアする例を示します。 <pre>Console&gt; (enable) <b>clear boot device 2</b> Device BOOT variable = Console&gt; (enable)</pre>
関連コマンド	<a href="#">set boot device</a> <a href="#">show boot device</a>

# clear boot system

BOOT 環境変数の内容およびコンフィギュレーション レジスタ設定をクリアするには、**clear boot system** コマンドセットを使用します。

**clear boot system all** [*mod*]

**clear boot system flash device:[filename]** [*mod*]

## 構文の説明

<b>all</b>	BOOT 環境変数全体をクリアするキーワード。
<i>mod</i>	(任意) フラッシュ デバイスが含まれるスーパーバイザ エンジンのモジュール番号。
<b>flash</b>	(任意) フラッシュ デバイスをクリアするキーワード。
<i>device:</i>	フラッシュ デバイスの名前。
<i>filename</i>	(任意) フラッシュ デバイスのファイル名。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、BOOT 環境変数全体をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear boot system all
BOOT variable =
Console> (enable)
```

次に、特定のデバイスをクリアする例を示します。指定したデバイスがリストされないことに注意してください。

```
Console> (enable) clear boot system flash bootflash:cat6000-sup.5-5-1.bin
BOOT variable = bootflash:cat6000-sup.6-1-1.bin,1;bootflash:cat6000-sup.5-5-2.
bin,1;
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set boot system flash](#)  
[show boot](#)



# clear cam

CAM テーブルから特定のエン트리またはすべてのエントリを削除するには、**clear cam** コマンドセットを使用します。

```
clear cam mac_addr [vlan]
```

```
clear cam {dynamic | static | permanent} [vlan]
```

## 構文の説明

<i>mac_addr</i>	1 つまたは複数の MAC アドレス。
<i>vlan</i>	(任意) VLAN の番号。有効値は <b>1 ~ 1000</b> および <b>1025 ~ 4094</b> です。
<b>dynamic</b>	CAM テーブルからダイナミック CAM エントリをクリアするキーワード。
<b>static</b>	CAM テーブルからスタティック CAM エントリをクリアするキーワード。
<b>permanent</b>	CAM テーブルから永続的 CAM エントリをクリアするキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、CAM テーブルから MAC アドレス 00-40-0b-a0-03-fa を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear cam 00-40-0b-a0-03-fa  
CAM table entry cleared.  
Console> (enable)
```

次に、CAM テーブルからダイナミック エントリをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cam dynamic  
Dynamic CAM entries cleared.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set cam](#)  
[show cam](#)

# clear channel statistics

PAgP 統計情報をクリアするには、**clear channel statistics** コマンドを使用します。

## clear channel statistics

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、PAgP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear channel statistics  
PAgP statistics cleared.  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[show channel](#)

# clear config

NVRAM に保存されているシステムまたはモジュール設定情報をクリアするには、**clear config** コマンドを使用します。

```
clear config {mod | rmon | all | snmp | acl nvram}
```

## 構文の説明

<i>mod</i>	モジュール番号。
<b>rmon</b>	historyControlTable、alarmTable、eventTable、ringStation ControlTable を含めてすべての RMON 設定をクリアするキーワード。
<b>all</b>	IP アドレスを含めてすべてのモジュールおよびシステム設定情報をクリアするキーワード。
<b>snmp</b>	すべての SNMP 設定をクリアするキーワード。
<b>acl nvram</b>	すべての ACL 設定をクリアするキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

MSM の使用中に **clear config** コマンドを入力すると、Catalyst 6000 ファミリ スイッチ スーパーバイザ エンジンが保持している部分の MSM 設定がクリアされます。MSM が保持している部分の設定は、ルータ レベル (router> プロンプト) でクリアする必要があります。

**clear config all** コマンドを使用する前に、**copy** コマンドを使用して、設定のバックアップを保存してください。

## 例

次に、モジュール 2 の NVRAM にある設定情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear config 2
This command will clear module 2 configuration.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
.....
Module 2 configuration cleared.
Console> (enable)
```

次に、モジュール 1 (スーパーバイザ エンジン) の NVRAM に保存されている設定情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear config 1
This command will clear module 1 configuration.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
.....
Module 1 configuration cleared.
host%
```

## ■ clear config

次に、Catalyst 6000 ファミリ スイッチのすべての設定情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear config all
This command will clear all configuration in NVRAM.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
.....
Connection closed by foreign host
host%
```

次に、Catalyst 6000 ファミリ スイッチのすべての SNMP 設定情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear config snmp
This command will clear SNMP configuration in NVRAM.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
.....
Connection closed by foreign host
host%
```

次に、NVRAM からすべての ACL 設定情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear config acl nvram
ACL configuration has been deleted from NVRAM.
Warning:Use the copy commands to save the ACL configuration to a file
and the 'set boot config-register auto-config' commands to configure the
auto-config feature.
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set config acl nvram](#)  
[show config qos acl](#)

# clear config pvlan

ポート マッピングを含めて、システムのすべてのプライベート VLAN 設定をクリアするには、**clear config pvlan** コマンドを使用します。

## clear config pvlan

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、システムのすべてのプライベート VLAN 設定をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear config pvlan
This command will clear all private VLAN configurations.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
VLAN 15 deleted
VLAN 16 deleted
VLAN 17 deleted
VLAN 18 deleted
Private VLAN configuration cleared.
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

**set vlan**  
**show vlan**  
**set pvlan**  
**set pvlan mapping**  
**clear vlan**  
**clear pvlan mapping**  
**show pvlan**  
**show pvlan mapping**  
**configure**  
**show config**

# clear cops

COPS 設定をクリアするには、**clear cops** コマンドセットを使用します。

```
clear cops roles role1 [role2]...
```

```
clear cops all-roles
```

```
clear cops server all [diff-serv | rsvp]
```

```
clear cops server ipaddr [diff-serv | rsvp]
```

```
clear cops domain-name
```

## 構文の説明

<b>roles</b> <i>role#</i>	クリアするロールを指定するキーワードおよび変数。
<b>all-roles</b>	すべてのロールをクリアするキーワード。
<b>server</b>	COPS サーバを指定するキーワード。
<b>all</b>	すべてのサーバ テーブルをクリアするキーワード。
<b>diff-serv</b>	(任意) 差別化サービス サーバ テーブルを指定するキーワード。
<b>rsvp</b>	(任意) RSVP+ サーバ テーブルを指定するキーワード。
<i>ipaddr</i>	サーバの IP アドレスまたは IP エイリアス。
<b>domain-name</b>	サーバのドメイン名を指定するキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンド モード

特権。

## 使用上のガイドライン

**clear cops all-roles** コマンドを使用すると、すべてのポートからすべてのロールをクリアできます。

## 例

次に、特定のロールをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cops roles backbone_port main_port
Roles cleared.
Console> (enable)
```

次に、すべてのロールをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cops all-roles
All roles cleared.
Console> (enable)
```

次に、すべての COPS サーバをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cops server all
```

```
All COPS servers cleared.  
Console> (enable)
```

次に、特定の COPS サーバをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cops server my_server1  
All COPS servers cleared.  
Console> (enable)
```

次に、COPS ドメイン名をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear cops domain-name  
Domain name cleared.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show cops](#)  
[set cops](#)

# clear counters

MAC カウンタ、EtherChannel MAC カウンタ、ポート カウンタ、チャンネル トラフィック パーセンタイルをクリアするには、**clear counters** コマンドを使用します。

**clear counters** [**all** | *mod/ports*]

## 構文の説明

<b>all</b>	(任意) すべてのポートを指定するためのキーワード。
<i>mod/ports</i>	(任意) モジュール番号およびモジュールのポート番号。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

クリアするポートの範囲を指定しなかった場合、スイッチのすべてのポートがクリアされます。

## 例

次に、MAC カウンタとポート カウンタをゼロにリセットする例を示します。

```
Console> (enable) clear counters
This command will reset all MAC and port counters reported in CLI and SNMP.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
```

```
MAC and Port counters cleared.
Console> (enable)
```

次に、特定のモジュールおよびポートについて、MAC カウンタとポート カウンタをゼロにリセットする例を示します。

```
Console> (enable) clear counters 5/1
This command will reset MAC and port counters reported by the CLI for port(s) 5/1.
Do you want to continue (y/n) [n]? y
```

```
MAC and Port counters cleared.
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[restore counters](#)  
[show port counters](#)



# clear crypto key rsa

すべての RSA 公開キー ペアを削除するには、**clear crypto key rsa** コマンドを使用します。

## clear crypto key rsa

### 構文の説明

このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

**crypto** コマンドは、次のイメージ タイプを実行するシステムのみでサポートされます。

- supk9 イメージ : cat6000-supk9.6-1-3.bin など
- supcvk9 イメージ : cat6000-supcvk9.6-1-3.bin など

### 例

次に、RSA キー ペアをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear crypto key rsa
Do you really want to clear RSA keys (y/n) [n]? y
RSA keys has been cleared.
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set crypto key rsa](#)  
[show crypto key](#)

# clear dot1x config

すべてのポートの dot1x をディセーブルにして値をデフォルト設定に戻すには、**clear dot1x config** コマンドを使用します。

## clear dot1x config

### 構文の説明

このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、dot1x をディセーブルにして値をデフォルト設定に戻す例を示します。

```
Console> (enable) clear dot1x config
This command will disable Dot1x and take values back to factory default.

Do you want to continue (y/n) [n]? y
Dot1x config cleared.
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

**set port dot1x**  
**show dot1x**  
**show port dot1x**

# clear gmrp statistics

指定した VLAN またはすべての VLAN からのすべての GMRP 統計情報をクリアするには、**clear gmrp statistics** コマンドを使用します。

```
clear gmrp statistics {vlan | all}
```

## 構文の説明

<i>vlan</i>	VLAN の番号。有効値は <b>1 ~ 1000</b> および <b>1025 ~ 4094</b> です。
<b>all</b>	すべての VLAN を指定するキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、すべての VLAN からの GMRP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear gmrp statistics all  
GMRP statistics cleared.  
Console> (enable)
```

次に、VLAN 1 からの GMRP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear gmrp statistics 1  
GMRP statistics cleared from VLAN 1.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show gmrp statistics](#)

# clear gvrp statistics

すべての GVRP 統計情報をクリアするには、**clear gvrp statistics** コマンドを使用します。

**clear gvrp statistics** {*mod/port* | **all**}

## 構文の説明

<i>mod/port</i>	モジュール番号とポート番号。
<b>all</b>	すべてのポートを指定するためのキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、すべての GVRP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear gvrp statistics all
GVRP statistics cleared for all ports.
Console> (enable)
```

次に、モジュール 2、ポート 1 の GVRP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear gvrp statistics 2/1
GVRP statistics cleared on port 2/1.
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show gvrp configuration](#)  
[set gvrp](#)

# clear igmp statistics

IGMP スヌーピング統計情報をクリアするには、**clear igmp statistics** コマンドを使用します。

## clear igmp statistics

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、IGMP 統計情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear igmp statistics  
IGMP statistics cleared.  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set igmp](#)  
[show igmp statistics](#)

# clear ip alias

**set ip alias** コマンドを使用して設定した IP エイリアスをクリアするには、**clear ip alias** コマンドを使用します。

```
clear ip alias {name | all}
```

## 構文の説明

<i>name</i>	削除する IP アドレス エイリアス。
<b>all</b>	設定済みのすべての IP アドレス エイリアスを削除するように指定するキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、babar という定義済み IP エイリアスを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip alias babar  
IP alias deleted.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set ip alias](#)  
[show ip alias](#)

# clear ip dns domain

デフォルト DNS ドメイン名をクリアするには、**clear ip dns domain** コマンドを使用します。

## clear ip dns domain

**構文の説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** このコマンドには、デフォルト設定はありません。

**コマンドの種類** スイッチ コマンド。

**コマンドモード** 特権。

**例** 次に、デフォルトの DNS ドメイン名を消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip dns domain  
Default DNS domain name cleared.  
Console> (enable)
```

**関連コマンド** [set ip dns domain](#)  
[show ip dns](#)

# clear ip dns server

DNS サーバリストから DNS サーバを削除するには、**clear ip dns server** コマンドを使用します。

**clear ip dns server** {*ip\_addr* | **all**}

## 構文の説明

<i>ip_addr</i>	削除する DNS サーバの IP アドレス。DNS で解決可能な IP エイリアスまたはホスト名も使用できます。
<b>all</b>	DNS サーバリストのすべての IP アドレスを削除するように指定するキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、DNS サーバリストから IP アドレス 198.92.30.32 の DNS サーバを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip dns server 198.92.30.32
198.92.30.32 cleared from DNS table.
Console> (enable)
```

次に、DNS サーバリストからすべての DNS サーバを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip dns server all
All DNS servers cleared
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set ip dns server](#)  
[show ip dns](#)



# clear ip permit

指定した IP アドレスとマスク、またはすべての IP アドレスとマスクを許可リストから削除するには、**clear ip permit** コマンドセットを使用します。

## clear ip permit all

**clear ip permit** {*ip\_addr*} [*mask*] [**telnet** | **ssh** | **snmp** | **all**]

### 構文の説明

<i>ip_addr</i>	クリアする IP アドレス。DNS で解決可能な IP エイリアスまたはホスト名も使用できます。
<i>mask</i>	(任意) 指定した IP アドレスのサブネット マスク。
<b>telnet</b>	(任意) Telnet 許可リストのエントリをクリアするキーワード。
<b>ssh</b>	(任意) SSH 許可リストのエントリをクリアするキーワード。
<b>snmp</b>	(任意) SNMP 許可リストのエントリをクリアするキーワード。
<b>all</b>	(任意) すべての許可リストをクリアするキーワード。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

IP 許可機能の状態を変更せずに許可リストをクリアするには、**clear ip permit all** コマンドを使用します。許可リストからすべての IP アドレスがクリアされたが、機能がイネーブルになっている場合は、警告が表示されます。デフォルト (255.255.255.255) 以外のマスクが設定されている場合、特定のエントリをクリアするには、アドレスとマスクの両方を指定する必要があります。

**telnet**、**ssh**、**snmp**、または **all** キーワードが指定されていない場合、SNMP 許可リストと Telnet 許可リストの両方から IP アドレスが削除されます。

### 例

次に、IP アドレスを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip permit 172.100.101.102
172.100.101.102 cleared from IP permit list.
Console> (enable)
```

```
Console> (enable) clear ip permit 172.160.161.0 255.255.192.0 snmp
172.160.128.0 with mask 255.255.192.0 cleared from snmp permit list.
Console> (enable)
```

```
Console> (enable) clear ip permit 172.100.101.102 telnet
172.100.101.102 cleared from telnet permit list.
Console> (enable)
```

```
Console> (enable) clear ip permit all
```

## ■ clear ip permit

```
IP permit list cleared.  
WARNING  
IP permit list is still enabled.  
Console> (enable)
```

---

関連コマンド

[set ip permit](#)  
[show ip permit](#)

# clear ip route

IP ルーティング テーブル エントリを削除するには、**clear ip route** コマンドを使用します。

**clear ip route** *destination gateway*

## 構文の説明

<i>destination</i>	ホストまたはネットワークの IP アドレス。DNS で解決可能な IP エイリアスまたはホスト名も使用できます。
<i>gateway</i>	ゲートウェイ ルータの IP アドレスまたはエイリアス。

## デフォルト

デフォルトは *destination* です。宛先がアクティブなデフォルト ゲートウェイでない場合、実際の宛先がデフォルトになります。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、**clear ip route** コマンドを使用してルーティング テーブル エントリを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear ip route 134.12.3.0 elvis
Route deleted.
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set ip route](#)  
[show ip route](#)

# clear kerberos clients mandatory

ネットワークのサービスに関して必須の Kerberos 認証をディセーブルにするには、**clear kerberos clients mandatory** コマンドを使用します。

## clear kerberos clients mandatory

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

Kerberos クライアントは必須に設定されていません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

Kerberos 認証を必須にしていない場合、Kerberos 認証が得られないと、アプリケーションはそのネットワーク サービスでデフォルトの認証方式を使用して、ユーザを認証しようとします。たとえば、Telnet の場合はパスワードを要求します。

### 例

次に、必須の Kerberos 認証をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear kerberos clients mandatory
Kerberos clients mandatory cleared
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set kerberos clients mandatory](#)  
[show kerberos](#)

# clear kerberos credentials forward

資格情報の転送をディセーブルにするには、**clear kerberos credentials forward** コマンドを使用します。

## clear kerberos credentials forward

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトでは、転送がディセーブルになっています。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

TGT が与えられ、Kerberos 対応スイッチの認証を受けた場合は、その TGT を使用してネットワーク上のホストの認証を受けることができます。ただし、転送が禁止されている場合、ユーザがホストの認証を受けた後で資格情報を表示しようとする、Kerberos 資格情報が存在しないことを示す出力になります。

### 例

次に、Kerberos 資格情報の転送をディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) clear kerberos credentials forward  
Kerberos credentials forwarding disabled  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set kerberos credentials forward](#)  
[set kerberos clients mandatory](#)  
[show kerberos](#)

# clear kerberos creds

すべての Kerberos 資格情報を削除するには、**clear kerberos creds** コマンドを使用します。

## clear kerberos creds

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

TGT が与えられ、Kerberos 対応スイッチの認証を受けた場合は、その TGT を使用してネットワーク上のホストの認証を受けることができます。

### 例

次に、すべての Kerberos 資格情報を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear kerberos creds  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[set kerberos credentials forward](#)  
[show kerberos](#)

# clear kerberos realm

Kerberos レalm名を DNS ドメイン名またはホスト名にマッピングするエントリをクリアするには、**clear kerberos realm** コマンドを使用します。

```
clear kerberos realm {dns_domain | host} kerberos_realm
```

## 構文の説明

<i>dns_domain</i>	Kerberos レalmにマッピングする DNS ドメイン名。
<i>host</i>	Kerberos レalmにマッピングする IP アドレスまたは名前。
<i>kerberos_realm</i>	Kerberos レalmの IP アドレスまたは名前。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

**set kerberos realm** コマンドを使用して、Kerberos レalmを DNS ドメイン名またはホスト名にマッピングできます。

## 例

次に、Kerberos レalmをドメイン名にマッピングするエントリをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear kerberos realm CISCO CISCO.COM
Kerberos DnsDomain-Realm entry CISCO - CISCO.COM deleted
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

**set kerberos realm**  
**set kerberos local-realm**  
**show kerberos**

# clear kerberos server

指定した KDC エントリをクリアするには、**clear kerberos server** コマンドを使用します。

```
clear kerberos server kerberos_realm {hostname | ip_address} [port_number]
```

## 構文の説明

<i>kerberos_realm</i>	Kerberos レalm の名前。
<i>hostname</i>	KDC を実行するホスト名。
<i>ip_address</i>	KDC を実行するホストの IP アドレス。
<i>port_number</i>	(任意) モジュール上のポート番号。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

Kerberos レalm で使用する KDC をスイッチに対して指定できます。このコマンドは、テーブルからサーバ エントリをクリアします。

## 例

次に、スイッチで入力された KDC サーバをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear kerberos server CISCO.COM 187.0.2.1 750
Kerberos Realm-Server-Port entry CISCO.COM-187.0.2.1-750 deleted
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[set kerberos server](#)  
[show kerberos](#)



# clear key config-key

トリプル DES 秘密キーを削除するには、**clear key config-key** コマンドを使用します。

**clear key config-key** *string*

---

## 構文の説明

---

*string* トリプル DES キーの名前。名前は 8 バイト以下です。

---

---

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

---

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

---

## コマンドモード

特権。

---

## 例

次に、トリプル DES 秘密キーを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear key config-key abcd  
Kerberos config key deleted  
Console> (enable)
```

---

## 関連コマンド

[set key config-key](#)

# clear lda

スイッチから ASLB MLS エントリまたは MAC アドレスを削除するには、**clear lda** コマンドセットを使用します。

## clear lda mls

```
clear lda mls [destination ip_addr_spec] [source ip_addr_spec] [protocol protocol
src-port src_port dst-port dst_port]
```

```
clear lda vip {all | vip | vip tcp_port}
```

```
clear lda mac {all | router_mac_address}
```

## 構文の説明

<b>mls</b>	設定済みの LD を削除するキーワード。
<b>destination</b> <i>ip_addr_spec</i>	(任意) <i>ip_addr</i> 、 <i>ip_addr/netmask</i> 、または <i>ip_addr/maskbit</i> 形式による宛先 IP アドレス全体またはサブネットアドレス。
<b>source</b> <i>ip_addr_spec</i>	(任意) <i>ip_addr</i> 、 <i>ip_addr/netmask</i> 、または <i>ip_addr/maskbit</i> 形式による送信元 IP アドレス全体またはサブネットアドレス。
<b>protocol</b> <i>protocol</i>	(任意) 照合する追加のフロー情報 (プロトコル ファミリおよびプロトコル ポート ペア) を指定するキーワードおよび変数。有効値には <b>tcp</b> 、 <b>udp</b> 、 <b>icmp</b> 、またはその他のプロトコル ファミリを表す 10 進数があります。
<b>src-port</b> <i>src_port</i>	(任意) TCP/UDP 送信元ポートの番号を指定するキーワードおよび変数 (10 進数)。protocol が <b>tcp</b> または <b>udp</b> の場合に、 <b>dst-port</b> と組み合わせて使用して、ポートのペアを指定します。 <b>0</b> は、「指定なし」を示します。
<b>dst-port</b> <i>dst_port</i>	(任意) TCP/UDP 宛先ポートの番号を指定するキーワードおよび変数 (10 進数)。protocol が <b>tcp</b> または <b>udp</b> の場合に、 <b>src-port</b> と組み合わせて使用して、ポートのペアを指定します。 <b>0</b> は、「指定なし」を示します。
<b>vip all</b>	すべての VIP カップル ( <b>set lda</b> コマンドで設定) を削除するキーワード。
<b>vip vip</b>	VIP を指定するキーワードおよび変数。
<b>vip vip</b> <i>tcp_port</i>	VIP とポートのカップルを指定するキーワードおよび変数。
<b>mac all</b>	すべての ASLB ルータ MAC アドレスをクリアするキーワード。
<b>mac</b> <i>router_mac_address</i>	特定のルータ MAC アドレスをクリアするキーワードおよび変数。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

**コマンドモード** 特権。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、Supervisor Engine 1 および Layer 3 Switching Engine WS-F6K-PFC（ポリシー フィーチャ カード）で設定されたスイッチでのみサポートされます。

宛先 キーワードを入力すると、宛先 IP アドレス指定と一致するエントリが指定されます。送信元 キーワードを入力すると、送信元 IP アドレス指定と一致するエントリが指定されます。*ip\_addr\_spec* を入力すると、IP アドレス全体またはサブネット アドレスを指定できます。キーワードを指定しなかった場合はワイルドカードとして扱われ、すべてのエントリが表示されます。

*ip\_addr\_spec* を入力するときは、*ip\_addr*、*ip\_addr/netmask*、または *ip\_addr/maskbit* 形式の IP アドレス全体またはサブネット アドレスを使用します。

どのキーワードも入力しない場合、スイッチから LD が削除され、NVRAM から LD 設定が削除されます。

**clear lda mls** コマンドにキーワードを指定しないで入力すると、すべての ASLB MLS エントリがクリアされます。

**例** 次に、特定の宛先アドレスについて ASLB MLS エントリをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear lda mls destination 172.20.26.22  
MLS IP entry cleared.  
Console> (enable)
```

次に、VIP とポートのペア（VIP 10.0.0.8、ポート 8）を削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear lda vip 10.0.0.8 8  
Successfully deleted vip/port pairs.  
Console> (enable)
```

次に、すべての ASLB ルータ MAC アドレスをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear lda mac all  
Successfully cleared Router MAC address.  
Console> (enable)
```

次に、特定の ASLB ルータ MAC アドレスを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear lda mac 1-2-3-4-5-6  
Successfully cleared Router MAC address.  
Console> (enable)
```

**関連コマンド**

- commit lda**
- show lda**
- set lda**

# clear log

モジュール、システム エラー ログ、またはダンプ ログ エントリを削除するには、**clear log** コマンド セットを使用します。

**clear log** [*mod*]

**clear log dump**

## 構文の説明

<i>mod</i>	(任意) モジュール番号。
<b>dump</b>	ダンプ ログ エントリをクリアするキーワード。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

モジュール番号を指定しなかった場合は、システム全体のシステム エラー ログが消去されます。

## 例

次に、システム エラー ログをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear log
System error log cleared.
Console> (enable)
```

次に、ダンプ ログをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear log dump
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show log](#)

# clear log command

コマンド ログ エントリ テーブルをクリアするには、**clear log command** コマンドを使用します。

**clear log command** [*mod*]

## 構文の説明

*mod* (任意) モジュール番号。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

コマンド ログ エントリ テーブルとは、コンソールまたは Telnet からスイッチに入力されたコマンドの履歴ログです。

## 例

次に、スイッチのコマンド ログ テーブルをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear log command  
Local-log cleared  
Console> (enable)
```

次に、特定のモジュールのコマンド ログ テーブルをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear log command 3  
Module 3 log cleared.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show log command](#)

# clear logging buffer

システム ログング バッファをクリアするには、**clear logging buffer** コマンドを使用します。

## clear logging buffer

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 例

次に、システム ログング バッファをクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear logging buffer  
System logging buffer cleared.  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[show logging buffer](#)

# clear logging level

特定のファシリティまたはすべてのファシリティのログ レベルをデフォルト設定にリセットするには、**clear logging level** コマンドを使用します。

```
clear logging level {facility | all}
```

## 構文の説明

<i>facility</i>	リセットするファシリティの名前。ファシリティ タイプを表 2-1 に示します。
<b>all</b>	すべてのファシリティをリセットするキーワード。

表 2-1 ファシリティ タイプ

ファシリティ名	定義
<b>all</b>	すべてのファシリティ
<b>acl</b>	Access Control List (アクセス コントロール リスト)
<b>cdp</b>	Cisco Discovery Protocol (シスコ検出プロトコル)
<b>cops</b>	Common Open Policy Service Protocol
<b>dtp</b>	Dynamic Trunking Protocol (ダイナミック トランキング プロトコル)
<b>dvlan</b>	ダイナミック VLAN
<b>earl</b>	Enhanced Address Recognition Logic
<b>filesys</b>	ファイル システム ファシリティ
<b>gvrp</b>	GARP VLAN Registration Protocol
<b>ip</b>	Internet Protocol (インターネット プロトコル)
<b>kernel</b>	カーネル
<b>ld</b>	ASLB ファシリティ
<b>mcast</b>	Multicast
<b>mgmt</b>	管理
<b>mls</b>	Multilayer Switching (マルチレイヤ スイッチング)
<b>pagp</b>	Port Aggregation Protocol (ポート集約プロトコル)
<b>protfilt</b>	Protocol Filter (プロトコル フィルタ)
<b>pruning</b>	VTP pruning (VTP プルーニング)
<b>privatevlan</b>	Private VLAN facility (プライベート VLAN ファシリティ)
<b>qos</b>	Quality of Service
<b>radius</b>	Remote Authentication Dial-In User Service
<b>rsvp</b>	ReSerVation Protocol
<b>security</b>	セキュリティ
<b>snmp</b>	Simple Network Management Protocol (簡易ネットワーク管理プロトコル)

表 2-1 ファシリティ タイプ (続き)

ファシリティ名	定義
<b>spantree</b>	Spanning Tree Protocol (スパニング ツリー プロトコル)
<b>sys</b>	System
<b>tac</b>	Terminal Access Controller (ターミナル アクセス コントローラ)
<b>tcp</b>	Transmission Control Protocol (伝送制御プロトコル)
<b>telnet</b>	Terminal Emulation Protocol (端末エミュレーションプロトコル)
<b>tftp</b>	Trivial File Transfer Protocol (簡易ファイル転送プロトコル)
<b>udld</b>	User Datagram Protocol (ユーザ データグラム プロトコル)
<b>vmps</b>	VLAN Membership Policy Server (VLAN メンバシップ ポリシー サーバ)
<b>vtp</b>	Virtual Terminal Protocol (仮想端末プロトコル)

**デフォルト** このコマンドには、デフォルト設定はありません。

**コマンドの種類** スイッチ コマンド。

**コマンドモード** 特権。

**例** 次に、特定のファシリティをデフォルト設定にリセットする例を示します。

```
Console> (enable) clear logging level dtp
Current session and default severities of facility <dtp> set to factory default values.
Console> (enable)
```

次に、すべてのファシリティをデフォルト設定にリセットする例を示します。

```
Console> (enable) clear logging level all
Current session and default severities of all facilities set to factory default values.
Console> (enable)
```

**関連コマンド** [set logging level](#)  
[show logging](#)



# clear logging server

システム ログ サーバ テーブルから Syslog サーバを削除するには、**clear logging server** コマンドを使用します。

**clear logging server** *ip\_addr*

---

## 構文の説明

---

*ip\_addr* 削除する Syslog サーバの IP アドレス。

---

---

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

---

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

---

## コマンドモード

特権。

---

## 例

次に、設定から Syslog サーバを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging server 171.69.192.207
System log server 171.69.192.207 removed from system log server table.
Console> (enable)
```

---

## 関連コマンド

[set logging server](#)  
[show logging](#)

# clear mls cef

CEF 要約統計情報をクリアするには、**clear mls cef** コマンドを使用します。

## clear mls cef

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

### コマンドの種類

スイッチ コマンド。

### コマンドモード

特権。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Layer 3 Switching Engine II (PFC2) を搭載した Supervisor Engine 2 で設定された Catalyst 6000 ファミリ スイッチでのみサポートされます。

### 例

次に、CEF 要約情報をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear mls cef  
CEF statistics cleared.  
Console> (enable)
```

### 関連コマンド

[show mls cef summary](#)

# clear mls entry

Catalyst 6000 ファミリ スイッチの MLS エントリをクリアするには、**clear mls entry** コマンドセットを使用します。

```
clear mls entry [ip | ipx] all
```

```
clear mls entry ip destination ip_addr_spec [source ip_addr_spec] [protocol protocol]
[src-port src_port] [dst-port dst_port]
```

```
clear mls entry ipx destination ipx_addr_spec
```

## 構文の説明

<b>ip</b>	(任意) IP MLS を指定するキーワード。
<b>ipx</b>	(任意) IPX MLS を指定するキーワード。
<b>all</b>	すべての MLS エントリをクリアするキーワード。
<b>destination</b>	宛先 IP アドレスを指定するキーワード。
<b>ip_addr_spec</b>	<i>ip_addr</i> 、 <i>ip_addr/netmask</i> 、または <i>ip_addr/maskbit</i> 形式による IP アドレス全体またはサブネット アドレス。
<b>source ip_addr_spec</b>	(任意) 送信元 IP アドレスを指定するキーワードおよび変数。
<b>protocol protocol</b>	(任意) 照合する追加のフロー情報 (プロトコルファミリおよびプロトコルポートペア) を指定するキーワードおよび変数。有効値は <b>0</b> ~ <b>255</b> または <b>ip</b> 、 <b>ipinip</b> 、 <b>icmp</b> 、 <b>igmp</b> 、 <b>tcp</b> 、 <b>udp</b> です。
<b>src-port src_port</b>	(任意) 送信元ポート IP アドレスを指定するキーワードおよび変数。有効値は <b>1</b> ~ <b>65535</b> 、 <b>dns</b> 、 <b>ftp</b> 、 <b>smtp</b> 、 <b>telnet</b> 、 <b>x</b> (X-Windows)、 <b>www</b> です。
<b>dst-port dst_port</b>	(任意) 宛先ポート IP アドレスを指定するキーワードおよび変数。有効値は <b>1</b> ~ <b>65535</b> 、 <b>dns</b> 、 <b>ftp</b> 、 <b>smtp</b> 、 <b>telnet</b> 、 <b>x</b> (X-Windows)、 <b>www</b> です。
<b>ipx_addr_spec</b>	<i>src_net[mask]</i> 、 <i>dest_net.dest_node</i> 、または <i>dest_net/mask</i> 形式による IPX アドレス全体またはサブネット アドレス。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Layer 3 Switching Engine II (PFC2) を搭載した Supervisor Engine 2 で設定されたシステムではサポートされません。Layer 3 Switching Engine II (PFC2) を搭載した Supervisor Engine 2 で設定されたシステムのエントリをクリアするには、**clear mls entry cef adjacency** コマンドを入力する必要があります。

IPX アドレス構文を入力するときは、次のフォーマットを使用します。

- IPX ネットアドレス : 1..FFFFFFFE
- IPX ノードアドレス : x.x.x (x は 0 ~ FFFF)

## clear mls entry

- IPX アドレス : `ipx_net.ipx_node` (たとえば、3.0034.1245.AB45、A43.0000.0000.0001)

16 までのルータを明示的に MLS-RP として組み込むことができます。

ルータを MLS として使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- ルータが MLS-SE に含まれていること (明示的または自動的)。
- MLS 機能が Catalyst 6000 ファミリ スイッチでイネーブルになっていること。
- Catalyst 6000 ファミリがルータの MAC と VLAN のペアを認識していること。

IP サブネット アドレスを指定するには、次の構文を使用します。

- `ip_subnet_addr` : 短いサブネット アドレス形式です。IP アドレス `YY.YY.YY.00` の末尾の 10 進数 `00` は、IP サブネット アドレスの境界を指定します。たとえば、`172.22.36.00` は 24 ビット サブネット アドレス (サブネット マスク `172.22.36.00/255.255.255.0`) を示し、`173.24.00.00` は 16 ビット サブネット アドレス (サブネット マスク `173.24.00.00/255.255.0.0`) を示します。ただし、このフォーマットで識別できるのは、8、16、または 24 ビットのサブネット アドレスだけです。
- `ip_addr/subnet_mask` : 長いサブネット アドレス形式です。たとえば、`172.22.252.00/255.255.252.00` は、22 ビット サブネット アドレスを示します。このフォーマットは、任意のビット数のサブネット アドレスを指定できます。より柔軟に指定するには、`ip_addr` に `172.22.253.1/255.255.252.00` のような完全ホスト アドレスを指定します。
- `ip_addr/maskbits` : 単純化された長いサブネット アドレス形式です。マスク ビットは、ネットワーク マスクのビット数を指定します。たとえば、`172.22.252.00/22` は、22 ビット サブネット アドレスを示します。`ip_addr` は、`193.22.253.1/22` のような完全ホスト アドレスです。このアドレスのサブネット アドレスは、`ip_subnet_addr` と同じです。

**clear mls entry** コマンドで **all** 引数を使用しなかった場合、他の 3 つのキーワード (**source**、**destination**、または **protocol**) の少なくとも 1 つと、対応する引数を指定する必要があります。

`src_port` および `dest_port` の値を指定しないか、0 を入力した場合、すべてのエントリがクリアされます。

Catalyst 6000 ファミリ スイッチから MSM を削除すると、包含リストからすぐに削除され、MSM のすべての MLS エントリが削除されます。

## 例

次に、宛先 IP アドレス 172.20.26.22 の MLS エントリを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear mls entry destination 172.20.26.22
Multilayer switching entry cleared.
Console> (enable)
```

次に、宛先 IP アドレス 172.20.26.22 の特定の MLS エントリを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear mls entry ip destination 172.20.26.22 source 172.20.22.113 protocol tcp 520 320
Multilayer switching entry cleared
Console> (enable)
```

次に、宛先 IPX アドレスの特定の IPX MLS エントリを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear mls entry ipx destination 1.00e0.fefc.6000 source 3.0034.1245.AB45
IPX Multilayer switching entry cleared
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show mls entry](#)

# clear mls entry cef adjacency

CEF 隣接統計情報をクリアするには、**clear mls entry cef adjacency** コマンドセットを使用します。

**clear mls entry cef adjacency**

**clear mls entry cef ip** *[[ip\_addr/]mask\_len]* **adjacency**

**clear mls entry cef ipx** *[[ipx\_addr/]mask\_len]* **adjacency**

## 構文の説明

<b>ip</b>	IP エントリを指定するキーワード。
<b>ipx</b>	IPX エントリを指定するキーワード。
<i>ip_addr</i>	(任意) エントリの IP アドレス。
<i>mask_len</i>	(任意) エントリの IP アドレスまたは IPX アドレスに関連付けられているマスク長。有効値は <b>0</b> ~ <b>32</b> です。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Layer 3 Switching Engine II (PFC2) を搭載した Supervisor Engine 2 で設定された Catalyst 6000 ファミリ スイッチでサポートされます。

Layer 3 Switching Engine WS-F6K-PFC (ポリシー フィーチャ カード) を搭載した Supervisor Engine 1 で設定されたシステムの MLS エントリをクリアするには、**clear mls entry** コマンドを入力します。

*ipx\_addr* は、32 ビットの 16 進数で入力します。

## 例

次に、CEF エントリに関連付けられているすべての隣接関係をクリアする例を示します。

```
Console> (enable) clear mls cef entry adjacency  
Adjacency statistics has been cleared.  
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

**show mls entry cef**

# clear mls exclude protocol

[set mls exclude protocol](#) コマンドを使用してショートカットから除外したプロトコル ポートを削除するには、**clear mls exclude protocol** コマンドを使用します。

**clear mls exclude protocol tcp | udp | both port**

## 構文の説明

<b>tcp</b>	TCP ポートを指定するキーワード。
<b>udp</b>	UDP ポートを指定するキーワード。
<b>both</b>	ポートが TCP トラフィックと UDP トラフィックの両方に適用されることを指定するキーワード。
<b>port</b>	ポート番号。

## デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定はありません。

## コマンドの種類

スイッチ コマンド。

## コマンドモード

特権。

## 例

次に、プロトコル ポートの TCP パケットをハードウェア スイッチングする設定の例を示します。

```
Console> (enable) clear mls exclude protocol tcp 25
TCP packets with protocol port 25 will be MLS switched.
Console> (enable)
```

## 関連コマンド

[show mls exclude protocol](#)  
[set mls exclude protocol](#)